

クラウドサービスの活用

GIGAスクール構想では、児童の1人1台端末をネットワークに接続し、クラウドを活用することを前提としたICT環境の整備が行われています。

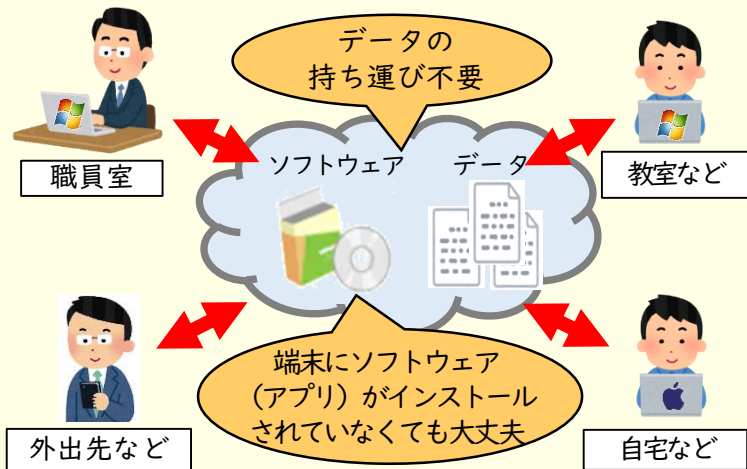
本研修では、これからの学校教育における活用が期待されている、クラウドサービスの機能や特長、活用のイメージについて確認します。



クラウドサービスの機能や特長

クラウドサービスには、インターネット上のソフトウェアを使ってファイルを作成したり、インターネット上の領域に保存したりする機能があります。

クラウドサービスを活用することにより、データの持ち運びが不要になるとともに、端末にソフトウェアがインストールされていないなくても、作業が可能になります。



クラウドサービスの活用イメージ

クラウドサービスの特長である、双方向性や即時性を生かすことにより、児童生徒の学びの質を高めることが期待されます。

例えば、クラウドサービスを活用して、学習の理解度を把握するためのアンケートを実施し、その場でアンケート結果を確認することで、指導を工夫したり改善したりすることが可能になります。

また、クラウドの同時編集機能を活用することで、児童生徒の話合いを深めることも可能です。

詳しい活用イメージは、ICT活用ポータルサイトに掲載されている「クラウドサービスを活用した授業のイメージ」をご覧ください。

クラウドサービスを活用した授業のイメージ

	今後の授業 (クラウド活用例)	従来の授業の課題
学期始め	年間の学習計画、単元のねらい、評価規準、評価方法を記したシラバスを、クラウド上に公開し、共有カレンダーを用いてスケジュール管理を行う。教師は各単元の始めの授業などで生徒にシラバスを再度提示し、説明することができる。	印刷した冊子やプリントを配布し、オリエンテーションなどで説明するため、時間がかかる。
家庭学習	提示された学習課題(自動採点できるものを含む)に取り組み、授業の前にクラウドを通して教師に提出する。教師は授業の前に全ての学習課題をPCで確認できる。	家庭学習の取組状況を即座に把握して授業を行うことは難しい。
授業前	教師は、次の授業の概要と「ねらい」、参考となる教材(映像、画像、参考資料等を含む)を、クラウドを通して提示する。生徒は、いつでもどこでも内容を確認して効果的に学習できる。	授業の初めに説明する場合、生徒は一度しか聞くことができない。
授業中	生徒は、事前に前回の授業の「まとめ」を作成し、授業の始めに、クラウドを通して提出する。教師は、いくつかの「まとめ」を提示し、全体で前回の振り返りを行う。次に、授業の「ねらい」を、クラウドを通して生徒のPCに提示し、全体で確認した上で授業を始める。	授業の初めに学習内容を黒板に板書し、説明するため、時間がかかる。
	生徒は、教師の説明を聞くだけでなく、提示されたクラウド上の教材(映像を含む)を、必要に応じて繰り返し視聴することができる。	大型提示装置で提示する場合は、一度しか見ることができない。
	教師は、課題やテーマをクラウドを通して生徒のPCに提示する。生徒は、グループごとにクラウドの同時編集スペースに自分の意見を記録しながら、議論し、考えをまとめる。クラウド上の記録を全体で共有し、グループ話し合いを深めることができる。	グループ内上位意見等を黒板に貼る

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ict/ict-portalsite.html>



クラウドサービスの活用に向けた参考資料

ICT活用授業モデル (Tips編) (北海道教育委員会)



クラウドサービスの活用例など授業モデルを掲載

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ict/ict-portalsite.html>



StuDX Style (文部科学省)



クラウドサービスを活用して児童生徒や家庭、保護者につながる事例を掲載

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index.html>

